

19 日投票の公営掲示板掲示ポスターに「共産の手から守る」の記載をした 目黒区長選挙候補者青木英二氏に対し抗議の意思を表明します。

目黒区長選挙は新型コロナウイルスが猛威をふるう中で行われることになりました。図らずも今回の区長選挙は、区民の命と健康・暮らしを守るといことはどういうことか、その先頭に立つべき区長はどのような人物であるべきかを選択する選挙となりました。その選挙の現職候補の公式ポスターに「共産の手から守る」という表現が用いられています。

“選挙は、民主主義の鏡”ともいわれ、候補者がそれぞれの主張や政策を論じあい、なによりも公明正大であることが求められるところ、4期16年も区長を勤めてきた青木氏が公式ポスターを使って特定の政党を貶めることは、その見識がうたがわれると言わざるを得ません。

私たちは立憲民主党・日本共産党などの皆さんと一緒に目黒区長選挙への候補擁立について折衝・論議をしてきました。その結果政策の一致を得ることが出来、候補者を決定してきました。この表現は日本共産党だけではなく擁立運動をして来た他党の皆さん、そして私たち区民団体の活動をも否定するものです。

- ①区民の貴重な税金を使う選挙のポスターにおいて、青木氏が区長に就任するはるか前から目黒区議会を構成し、しかも公的に認められている政党を排除するような表現をすることは前代未聞です。その見識に目を疑います。
- ②区長は「意見の多様性や議論の必要性を認め」議会運営にあたっているものと我々区民は理解していました。しかし今回のポスターに書かれた文言はその根本姿勢から逸脱しています。

意見が違う相手は排除ではなく議論する。そして一致点を見出し、結論を得るといのが民主主義の基本ではないでしょうか。しかるにこの「共産の手から守る」という表現を私たちは排除と受け取りました。意見の違う区民とは会わない、それどころか排除をする。公正・かつ民主主義の守り手であるべき区長としてあってはならない行為です。区長になるべき資格はないと言わざるを得ません。

以上の理由により、青木英二区長候補の行為に断固抗議するものです。

2020年4月15日

区政をかえよう目黒区民の会